校長室から　令和２年１１月１７日

たった２つの選択肢ではなく

新型コロナ・ウィルスの感染が日に日に拡大してきました。マスコミ報道もまた、新型コロナ関係の報道に関して時間を割いて取り上げるようになってきています。今年の１月、日本では、屋形船やクルーズ船の話題が大きく取り上げられ、その後、１年弱が経過しましたが、流行が収まる気配はないばかりか、「第３波」が心配されるようになりました。

報道を見ながら、難しい問題が山積しているのだなあと日々感じます。医療従事者の方々や専門家からは「人の流れを止めたほうがよい。様々なキャンペーンも一端中断したほうがよい。医療が逼迫して崩壊してしまう。」との意見表明も増えています。私たちも深く納得できる内容で、グラフや表、参考映像等を活用しての説明からは、かなり危機的状況なのが予想できます。しかし、異なる立場の意見として、「経済を止めては企業にとっては死活問題で、社会生活が成り立たなくなり、暮らしが崩壊してしまう。」この意見も正しいものだと納得できます。

私たちは意見を交換したり、議論したりする場合は、様々な意見を参考にしながら合意形成していきます。折り合いをつけたり、妥協したり、あるいは多数決で一方の意見を採用したり。それでも多数決の場合は、少数意見の立場を尊重し、理解しながら事が進んでいきます。

しかし、このコロナ禍で難しいのは、どちらの意見も正しくて、私たちは、毎日の情報から、どちらかの立場になり、いつのまにか、どちらの側も譲らない、譲れないという二者択一の選択を迫られるという状況になっているという事かもしれません。互いがどちらも譲らないように意見を主張し、自分の意見を声高に主張して終わりという場合も少なくありません。だから「自粛警察」「マスク警察」なるものも出現していくのでしょう。自分の主張だけが正しくて、自分の行為は正しいと思っているのでしょうか。客観的に冷静に観察すると、とても恥ずかしい行為だと気がつきます。このようにして私たちは、みんなで立ち向かわなければならないはずの「新しい感染症の罠」にはまっているのかもしれません。自分の立場を譲らず、他者は間違っていると感じる、これがこのコロナ禍の難しい日々なのだと思います。

学校で例えると「合唱コンクール」を実施するかしないか、「体育祭」を実施するかしないか、「修学旅行」を実施するかしないか、どちらの意見を主張してもどちらも正しいのだと思います。だから判断する事、それを告げる事、それを受け入れる事は、とても心的な困難が伴います。それぞれの学校で正解を求めて、教職員も保護者の方々も葛藤します。そして生徒たちが心穏やかではいられなくなります。

大切な事は何なのでしょうか。話し合う議題があって、互いに意見を述べ、互いを理解し、十分に話し合って、合意形成されて物事が進んでいく。これが手順です。

しかし、今のこの事態は、「人間の命を守る」ことと「人々の暮らしを守る」という人間生活の根源になっている課題の両方を同時に達成する事がとても難しいという状況にあるという事だと思います。学校生活でも同じような課題に直面しています。

本校の生徒は、その難しい課題に直面しながらも、感染症対策をしっかり守り、明るく振るまい、前を向いて生活しています。「０か１００か」ではなく、「プラスかマイナスか」でもなく、少しだけ後ろに引いて物事を観察する目がさらに養われれば、感染者が確認されても、人を攻めたり、誹謗中傷したりする事は無くなっていくでしょう。本校の生徒にはそのような力が備わっています。